

佛蘭西ニ於ケル東京市債ノ  
私 法 問 題

PROBLEMS IN PRIVATE LAW  
IN FRANCE RELATING TO THE TOKYO  
MUNICIPAL LOAN

教 授  
遊 佐 慶 夫  
PROF. Y. YUSA

1926

# 佛蘭西ニ於ケル東京市債ノ私法問題

遊 佐 慶 夫

I 序言——II 事件ノ要點——III 準據法——IV. 東京市條例——V. 消費貸借ノ概念問題——VI 金錢債務ノ法則及消費貸借トノ關係——VII 英貨公債トノ關係——VIII 有價證券問題——IX 信義誠實ト事情變更——X. 支拂地其他——附錄（市條例、金澤學士稿公債證書譯文、野村學士稿討論會記事）

## I. 序言

大正十五年三月一佛人ガ東京市ニ對シテ、同市ノ公債ニ付テ、下落セル佛貨ヲ以テスル利拂（利札十枚分百二十五法）ノ受領ヲ拒ミ、平價率ニ換算セル佛貨ヲ以テスル利拂（利札十枚分七〇二法）ヲ、請求スルノ訴訟ヲ、巴里セーヌ商事裁判所ニ提起シタ。訴訟ノ動機ハ佛貨ノ暴落ニ因ル損失ヲ補填センガ爲メデアロウ。東京市ニ於テハ從來通り、券面額ニ於テ下落セル佛貨ヲ以テ、支拂ハントスルモノ、如シ。茲ニ於テカ從來ノ法律組織ト時世ノ變遷ニ伴フ法律觀念トカラスレバ、幾多ノ論議アルモノノ様ニ想像サレル。故ニ私ハ當年七月、此事件カラ寫シ出シター問題ヲ掲ゲテ、早稻田大學法律討論會ニ於テ、學生、校友、及ビ教授諸君ト共ニ、半日ノ論議ニ耽ツタコトガアル。今、其論議ノ結果ニ徴シ、且ツ其他ノ考慮ヲ加ヘツ、此事件ニ關シテ法律上興味ヲ感ズル論點ヲ摘示シテ見ル。

法律問題トシテハ、裁判管轄ノ問題モアリ、殊ニ佛國裁判管轄カ日本裁判管轄カ、マタ前者ノ場合ニ於テハ商事裁判管轄カ民事裁判管轄カノ問題モアリ、マタ事件ニ對シテ適用サル可キ實體法ハ佛國法カ日本法カノ問題モアリ、マタ原告勝訴ノ場合ノ執行問題モアリ、訴訟上ノ策戰計畫ノ問題モアル。然シ私ハ事件ニ關スル總テノ問題ヲ、茲ニ論議スルモノデハナイ、其中心論點タル實體的私法問題丈ケヲ評議シテ見ル。

## II. 事件ノ要點

問題ノ東京市債ハ、西曆千九百十二年、五分利附ニテ、全額ヲ九百十七萬五千磅トシ、之ヲ二種ニ分テ、英貨公債證書分ハ五百十七萬五千磅ニシテ、佛貨公債證書分ハ一億八十八萬法（英貨四百萬磅ニ相當）トシテ、負擔セラレタモノデアル。而シテ後者ニ付テハ、二十萬千七百六十枚ニ分割セラレタル、五百法ノ無記名式公債證書ガ、佛蘭西市場ニ於テ發行セラレタノデアアル。此公債證書ニハ、英佛兩文カラ成ル十數ケ條ノ約款其他ノ記載ヲ掲ゲテ、債權債務ノ關係ヲ定メ、元本償還迄ハ毎年二回ニ利拂ヲ爲スモノトシテ、十二法半ヅツノ多數ノ無記名式利札ガ添加サレテ居ル（其全文ニ付テハ後段金澤學士ノ和譯參照）。

當該事件ノ原告ハ、同利札十枚ノ所持人ニシテ、其券面額ニ依レバ、半年分ノ利息ハ佛貨百二十五法ナルモ、英貨（一利札約十志）ヲ以テスル利拂ヲ、要求スル理由アリトナシ、之ヲ現時ノ佛貨ニ換算シテ、七百二法ノ支拂ヲ要求シテ居ル。現時ノ

事件ハ利拂ニ付テ、問題ヲ起シテ居ルモノデアルガ、同様ノ問題ハ其元本ニ付テモ、起リ得可キモノデアル。即チ佛貨十二法半ノ利札ヲ以テ、英貨約十志又ハ其相當額ヲ要求シ得ルモノトセバ、佛貨五百法ノ元本債券ヲ以テ、英貨約二十磅又ハ其相當額ヲ要求シ得ルモノト見ナケレバナラス。早稻田大學ニ於ケル討論問題ハ、元本ニ付テマアツタ。

### III. 準據法

事案ハ佛蘭西法上ノ問題トシテモ、マタ日本法上ノ問題トシテモ、更ニ其他ノ國法上ノ問題トシテモ、考ヘ得ルコトハ勿論デアル。現實ノ事件ハ多少ノ異論ハアランモ、佛蘭西法上ノ問題トシテハ、佛國裁判所ノ管轄權ヲ認メ、佛蘭西私法ヲ適用シテ裁判サル可キノタルコトハ明カデアロウ。然シ佛蘭西法ニ據ルガ爲メニ特ニ明瞭ナ解決ヲ得ラル、モノデモナク、マタ同法ニ據ルガ爲メニ特ニ疑問ヲ生ズルト云フ様ナコトモナイデアロウ。斯カル事件ハ日本法ニ據ルモ、マタ其他ノ國法ニ據ルモ、現代ノ文化國ノ法律組織ニ於テハ、恐ラク略同様ナコトガ、同様 問題ニ上ルデアロウ、先年、獨逸ノ通貨ガ暴落シタ折ニモ國際的ニモ國內的ニモ、類似ノ問題ハ澤山ニ起ツタ。是レ世界ヲ通ジテ、是迄ノ法律組織ガ、同程度ノ發達ニアルコトヲ、物語ルモノデアロウ。即チ各國ノ法律組織ハ何レモ、斯様ナ新問題ヲ説クニハ、如何ニモ其發達ノ幼稚デアツタコトガ明カニナル。故ニ以下解説スル法律論ハ、特ニ國別法ナルコトヲ表示セ

ザル限リハ、佛蘭西法ニ於テモ、日本法ニ於テモ（マタ其他ノ文化國法ニ於テモ）、大體歸一スル所ノモノデアル。

#### IV. 東京市條例

東京市ガ公債ヲ募集スルニ付テ、果シテ如何ナル意思ヲ有シテ居ツタカフ、判斷スルコトハ、此事件ノ解決ニ付テ、可ナリ重要ナル意義ヲ有スルコトデアロウ。茲ニ明治四十五年二月二十日市條例第二號、東京市電氣事業公債條例第一條第一項ニ依レバ、「本公債ハ電氣事業經營ノ費途ニ充ツル爲、英貨券面九百十七萬五千磅ヲ、明治四十四年ニ於テ募集ス」トアリ、其第二項ニ依レバ、「前項債額ハ其一部ヲ佛貨公債ニ變更スルコトヲ得此場合ニ於テハ英貨一磅ニ對シ、佛貨二十五法二十二參ノ割合ヲ以テ換算ス」トアル。是ニ依レバ抑モ東京市ハ英貨ヲ本位トシテ、公債ノ募集ヲ決意シタモノ、如クニモ看取サレル。然レドモ佛貨公債券ノ所持人ガ、此規定ヲ直接ノ根據トシテ、二十五法二十二參ヲ一磅ニ換算シテ、英貨又ハ其相當額ノ佛貨ヲ以テスル支拂ヲ、要求シ得ルモノトハ考ヘラレナイ。元來、斯様な規定ハ債務者タル東京市ガ公人トシテノ制度上ノ必要カラ、對内的ノ關係ヲ規律ス可キモノニ止マリ、東京市ト債券所持人トノ間ノ對外的ナ、債權債務ノ關係ヲ規律ス可キモノデハナイカモ知レヌ。然レドモ債券面ニハ其初頭ニ東京市ガ上ノ條例ニ基テ債務ヲ負擔スルト云フ意味ニモ、解セラレル文言ガアルカラニハ、此規定ヲ以テ全然對外關係ニハ影響ガナイト、斷ズル

コトニハ多少ノ困難ガ伴フ。故ニ此規定ハ東京市ガ如何ナル意思ヲ以テ債務ヲ負擔シタカ、殊ニ東京市ハ英貨ヲ標準トシテ債務負擔ノ決意ヲ爲シタモノデアロウカ、マタ東京市ハ佛貨ノ價值ノ變動ハ英貨ヲ以テ之ヲ調節保證スルマデノ意思ヲ有シタデアロウカ、而シテ一般人ハ此規定ニ據テ此等ノ東京市ノ債務意思ヲ信賴シテ其公債ニ應募シタモノデアロウカ、ト云フ様ナ問題ニハ解レルコトニナルデアロウ。要スルニ斯様ナ規定ハ、英貨又ハ其相當額ノ要求ニ付テ、直接且重要ナル根據トスルコトハ出來マイガ、間接的ニ而カモ輕微ナル一理由トハナルカモ知レナイ。

#### V. 消費貸借ノ概念問題

事件ハ先ヅ消費貸借ニ基ク問題トシテ、考察サレナケレバナルマイ。各國ニ於ケル消費貸借ノ法律概念トシテハ、借主ハ借受ケタモノト、同種、同等、同量ノモノヲ返還シナケレバナラス。然ルニ借主タル東京市ノ採レル元利金ノ支拂方法ハ果シテ消費貸借ノ概念ニ適スル支拂方法デアルカ否カノ問題ガ起ルデアロウ。今ヨリ十數年前ニ借受ケタ佛貨五百法ハ、假令、如何ナル種類ノ通貨ヲ以テ收受シタニセヨ、直チニ金貨ノ五百法ニ兌換セラレ得ルモノデアツタ。即チ東京市ハ純金ヲ借入レタモノト見ラレ得ルノデアアル。然ルニ今日ノ佛貨五百法ノ通貨ハ、コノ兌換性ガ著シク減少セルモノデアアル。假令、名目コソハ同ジク、五百法ト稱スト雖モ、其實價ヲ有セザル空貨デアリ、僅カニ法

律上ノ強制通用力ヲ有スルニ過ギザル貨幣ヲ以テスル返還ハ、借受ケタ佛貨ト種類、品等、數量ノ同ジモノ、返還ト見ルコトハ困難デアロウ。即チ五百法ノ一債券所持人ハ純金約四十匁ヲ貸付ケタモノト見ラレ得ルニモ拘ハラズ、兌換ノ能力ト信用トガ失ハレタル爲メニ、斯カル純金ノ價值ヲ代表スルコト能ハザル、今日ノ佛貨五百法ヲ以テスル東京市ノ支拂ハ、消費貸借ノ本旨ニ從ツタ債務ノ履行ト見ラレ得ルモノデアロウカ。コノ問題ハ移シテ之ヲ、利息ノ支拂ニ付テモ考ヘ得ルコトデアロウ。要スルニ金錢ノ消費貸借ニ於テハ、借主ハ其收受シタル實價ニ因テ義務付ケラレルモノデ、收受シタル名目ニ因テ義務付ケラル可キモノデハナイ。故ニ五百法ノ一公債證書所持人ハ、兌換ノ能力ヤ信用ガ失ハレタ爲メニ生ジタ現時ノ佛貨ノ價值ノ減損額ヲ補填シタル丈ケノ數額ノ佛貨 (500 fcs. + X fcs.) ヲ請求シ得ルコトニナル。然ルトキハ結局、五百法ノ債券所持人ハ元本トシテ英貨約二十磅、其一利札 (券面額十二法半) ニ付テ同十志位ノモノヲ請求シ得ルコトニナロウ。尤モ斯ク英貨カラ換算スルコトニ付テハ、別ノ根據カラ説明シナケレバナラス (後段 VII 參照)。茲ニハ單ニ借受ケタ貨幣ノ名義上ノ數額ヲ給付スル丈ケデハ、消費貸借上ノ債務履行トハナラナイ筈デアルト云フコトヲ注意スルニ留メル。

斯クノ如ク金錢ノ消費貸借關係ヲ、貨幣ノ純分價值カラ判斷スル立場ニ於テハ、上ニ述ブル所ト反對ノ事情變更ノ場合ヲモ

考ヘテ見ナケレバナラス。即チ其國貨幣制度ノ變革ニ依テ、履行期ニ於ケル五百法ノ本位貨幣ハ、純金約八十匁ヲ含有スルニ至ルトキハ、而シテ兌換ノ容易ナル限リハ、約四十匁ノ純金ヲ貸付ケタコトニ當ル五百法ノ一債券所持人ハ、結局券面額ノ半分二百五十法ノ貨幣ノ辨濟ヲ受ケテ満足シナケレバナラスコトニナル。惟フニ代價十圓ノ葡萄酒一壺ヲ借受ケタル債務者ハ、其履行時ニ於テハ一壺一圓デアロウト、一壺百圓デアロウトニ拘ハラズ、借受ケタ葡萄酒ト同種、同等、同量ノ一壺ヲ、給付シナケレバナラスコトハ明カデアル。金錢ヲ借リタ場合デモ、此理ハ認メラレナケレバナラス。即チ通貨ノ名目ヤ他ノ物トノ交換價格（購買力）ヲ以テセズ、通貨自體ノ表ハス實價（純分價）カラ換算シタル數額ヲ償還シナケレバ、消費貸借ノ概念ニハ適ハナイコトニナル。

尙ホ茲ニ注意シテ置キタイコトハ、貨幣ノ購買力ニ變化ヲ來シテモ、貨幣ノ純分價值ニ變化ヲ來サル限リ、消費貸借上ノ債務履行ニハ影響ヲ來サナイコトデアル。例ヘバ貸付當時ニ於テハ「ピアノ」一臺ヲ購買シ得ル五百法ヲ貸付ケタノニ、其償還ノ時ニハ其「ピアノ」ノ代價ハ五千法ニモナロウトモ、マタ其他一般ノ物價ガ斯様ニ騰貴シテ居ツテモ（マタ其反對ノ場合デモ）、貸付ケタ五百法ガ純金約四十匁ヲ代表スルモノデアリ、返還當時ノ五百法亦タ純金約四十匁ヲ代表スルモノデアレバ、借主ハ其五百法ヲ給付スレバ、消費貸借ノ本旨ニ從ツタ債務ノ履行ヲ



爲セルモノト見ナケレバナラス。然ルニ當該ノ事件ハ、純金約四十匁ヲ貸付ケタ者が、恐ラク十匁ニモ足ラザル純金ノ返還ヲ受ケルト、同様ノ結果ニナルノ DEAL カラ、原告ニ於テハ勢ヒ消費貸借上ノ權利ヲ、主張スルコトニナルデアロウ。

## VI. 金錢債務ノ法則及消費貸借トノ關係

事件ハマタ金錢債務ノ法則カラモ、考ヘラレナケレバナラス。フランス民法一八九五條ニ依レバ、「金額ヲ借受ケタル者ノ義務ハ其契約ニ表示セラレタル數額ノミニ限ラル、返還以前ニ貨幣ノ價格ニ昂低ヲ來スコトアルモ、借主ハ返還ノ時ニ通用スル貨幣ニテ、其借受ケタル數額ノミヲ返還スル義務ヲ負フ」ト云フ意味ノ規定ガアル。其他ノ文化諸國ノ民法ニ於テモ、從來、明文律又ハ不文律ニ依テ、是ト同趣旨ノ法則ガ認メラレテ居ル筈デアル。此法則ニ從フトキハ、事件ノ債券所持人ハ、現時ノ通貨ヲ以テスル券面額以外ニハ、何モノヲモ要求シ得ザル筈デアル。從テ東京市ノ採レル主張行動ヲ拒否スルコトハ出來ナイ筈デアル。然レドモ前述ノ消費貸借論カラスレバ、借主ハ借受ケタモノト同價值ノモノヲ返還シナケレバナラスコトニナルカラ、著シク價值ノ失ハレタル現時ノ通貨ヲ以テスル券面額ノ支拂丈ケデハ、完全ナル借主ノ義務履行トハナラナイコトニナル。然ルトキハ消費貸借ノ法理ト金錢債務ノ法理トノ間ニハ、内容的ニ矛盾ヲ生ズルコトニナルノデアル。コノ矛盾ハ調和スルコトヲ得ナイモノデアロウカ。

思フニ金錢債務ハ消費貸借ニ特有ナル現象デハナイ。贈與、賣買、質貸借、雇傭、請負、委任、其他ノ諸契約ニモ、事務管理、不當利得、不法行爲等ニモ、マタ其他種々ナル法律關係ニ於テ頻出スル現象デアアル。即チ金錢債務ノ法則ハ頗ル廣汎ナル適用範圍ヲ有スルモノデアアルカラ、之ヲ一般法トシ、消費貸借ノ法則ハ寧ロ其特別法トモ、考ヘ得ルモノデアアル。然ルトキハ特別法タル消費貸借ノ法理ハ、一般法タル金錢債務ノ法理ヲ排除スルコトニナリ、兩法則ノ内容のナ矛盾ハ、適用上玆ニ其調和ヲ見ルコトニナルノデアアル。マタ金錢債務ノ法則ハ履行ノ方法ニ關スルモノデアツテ、履行ノ數量ニ付テハ消費貸借ノ法則ニ從ハナケレバナラス、ト云フ内容的ニモ調和論ガ起リ得ルノデアアル。然ルトキハ債權者タル債券所持人ハ債務者タル東京市ニ對シテ、現時ノ通貨ニテ支拂ヲ受クルコトハ、金錢債務ノ法則上之ヲ拒ミ得ザルモ、其支拂ノ數額ニ於テハ消費貸借ノ法則ニ從テ、貸付ケタモノ、實價ヲ下ラザルモノタルコトヲ主張シ得ルコトニナル。即チ貸付當時ノ如キ純金ヲ代表スル佛貨ニ相當スル數額ニ換算シタル現時ノ通貨ノ數額ヲ請求シ得ルコトニナル。現時ノ事件ニ於ケル原告ハ、英貨ヲ標準トシテ其請求額ヲ換算シテ居ルガ、實際ノ結果ニ於テハ上述ノ論旨ト大差ナキモ其換算方法ハ他ノ論旨（後述VII）カラ出發シタ爲メデアロウ。

尤モ佛國民法ノ規定ハ、少シク他ノ立法例ト異ナツタ形式ヲ、採ツテ居ルコトヲ注意シナケレバナラス。即チ佛國民法デハ金

錢債務ニ關スル法則ヲ、消費貸借ニ關スル規定中ニ挿入シテ居ル。故ニ消費貸借ノ規定ガ一般法デアツテ、金錢債務ノ法則ガ其特別法ナルカノ如キ觀ヲ呈シテ居ル。マタ金錢債務ノ法則ニ於テハ、上示ノ如ク借主ハ、「借受ケタル數額」(la somme numérique prêtée) ヲ、返還ス可シト規定シテアルカラ、東京市ノ主張行動ハ此規定ノ文理ニハ正シク適合スルコトニナル (佛民法 1895)。然レドモ佛蘭西民法ニ於テハ、文理解釋ハ案外無力デアツテ、時世ヲ指導スル爲メニハ文理ヲ裏切ツタ解釋モ頗ル有力ニ行ハレテ居ルカラ、コノ文理解釋ハ差シテ重キヲ爲サナイカモ知レヌ。少クモ今日ノ司法界ト其學界ノ趨勢トカラスレバ、左様ナコトガ注意サレル。殊ニ世論ノ影響ヲ受ケ易イ商事裁判ニ於テ然リトスル。

## VII. 英貨公債トノ關係

事件ノ佛貨公債ハ、總額英貨九百十七萬五千磅ノ、電氣事業公債ノ一部ヲ變更シテ、四百萬磅丈ケヲ一億八十八萬法ノ、佛貨公債トシタモノデアル。故ニ五百法ノ債券所持人ハ、四百萬磅ノ二十萬千七百六十分ノ一 (約二十磅) ニ當ル數額ノ佛貨ヲ貸付ケタ債權者デアルコトハ、東京市電氣事業公債條例、公債證書及ビ其他公債成立當時ノ事情カラ明瞭デアル。原告ハ之ヲ理由トシテ、貸付額タル英貨相當額ノ佛貨ヲ要求シテ居ル様デアアル。其法理的根據ハ明カデナイガ、一種ノ消費貸借論ニ基クモノト察セラレル。唯ダ前示ノ消費貸借論ハ通貨ノ純分價值カ

ラ解説シタモノデアルガ、是ニアリテハ事件ノ佛貨公債ハ英貨公債ノ支分公債ナルコトヲ立論ノ根據トスルモノ、如シ。然シ兩公債ノ關係問題ハ、結局起債ノ動機トナレルニ過ギズシテ、假令佛貨公債ハ英貨公債ノ支分公債デアルトシテモ、分離セラレタル後ノ公債ニ於ケル債權者債務者間ノ法律關係ニ付テハ、兩公債ヲ獨立ナモノトシテ判斷ス可キデハアルマイカ。

尤モ此獨立論ニモ一ツノ疑問ガ伴ツテ居ル。ソレハ先ヅ兩債ニ共同ノ擔保ガアルコトデアル。市條例及ビ公債證書ノ約款ニ從ヘバ、英貨公債ト佛貨公債トハ不可分ニ擔保セラレテ居ル。即チ總額九百十七萬五千磅ノ元本及其利息ノ支拂ハ、東京市ノ電氣事業ノ純收入ヲ以テ優先ニ擔保セラレ、マタ市ノ總收入ヲ以テ一般ニ擔保セラル、コトニナツテ居ル。コノ擔保權ノ法律構成ニ付テハ、特ニ論議ス可キ問題モ含マツテ居ルケレドモ、本問題ノ解決ニ對シテハ直接ノ關係ハナイカラ、之ヲ茲ニ述ベルコトハ留保シテ置ク。寧ロ問題ハ、事件ノ佛貨公債ナルモノハ、元來、英貨公債ノ支分公債トシテ成立セルモノデアルカラ、佛貨公債ノ内容ハ英貨公債ノ内容ニ準ズ可キモノデアリ、佛貨公債券ノ所持人ノ權利ハ英貨公債券ノ所持人ノ權利ト均等ノモノデナケレバナラスモノトナシ、今日ノ如ク佛貨ノ價值ニ變動ヲ來セルカラニハ、コノ事情變更ヲ理由トシテ、債權者ハ英貨ヲ基礎トシテノ佛貨ノ增量償還ヲ請求シ得ルモノデアルカ否カデアル。英貨公債ト佛貨公債トガ、共同的ニ均等ニ利益ヲ受ク

可キ擔保ヲ有スルコトハ、債權ノ内容ニ於テマデ均等ノモノデナケレバナラヌト云フ結論ヲ生ズルデアロウカ。公債成立當時ノ事情ヲ推量シ、東京市及其公債應募者ノ意思ヲ合理的ニ解釋シテモ見ナケレバナラヌ。尙ホ兩債ノ不可分問題ハ、償還準備ノ爲メノ、東京市ノ橫濱正金銀行ニ於ケル預金(減債基金)ニ付テモ起ルデアロウ(約款10. 11. 參照)。

英貨公債トノ關係問題ニ付テハ、事情ガ全ク反對ノ結果ヲ生ンダ場合ノコトヲモ、考ヘテ見ナケレバナラヌ。即チ英貨ノ價值ガ甚ダシク減少シ、佛貨ノ價值ガ減少セザル場合デアル。若シ佛貨公債ハ英貨公債ノ支分公債ニシテ、貨幣價值ニ變動ヲ生ジタルトキハ、基本公債タル英貨公債ニ準ジテ換算サル可キモノトスレバ、此場合ニハ五百法ノ債券所持人ハ、五百法ヨリモ甚ダシク少キ數額ノ佛貨ノ支拂ヲ受ケテ、満足シナケレバナラヌコトニモナル。然ルトキハ問題ノ公債ハ、英貨ヲ標準トシテ佛貨ニ付テハ投機的ナ思想ヲ以テ、募集サレタモノト見ナケレバナラヌ様ニナル。故ニ債券面ノ五百法トハ、公債成立當時ノ英貨(約二十磅)ノ相當額ヲ表示シタルモノニシテ、眞ノ債權額ハ其履行期ニ於テ、英貨ニ相當スル佛貨ノ數額デナケレバナラヌ。從テ債券面ノ五百法トハ、債權ノ成立額ヲ表示スルモノニシテ、其履行額ハ時々ノ相場ニ依テ、算定セラレルモノトナルノデアル。事件ノ問題トナツテ居ル利息ニ付テモ、此議論ガ起ル。即チ十二法半ノ利札ノ所持人ハ、今日デハ英貨約十志ニ

相當スル數額ノ佛貨ノ債權者デナケレバナラヌコトニナル。

尙ホ事件ノ爭點ニハ佛貨公債證書ノ記載事項中ニ、英貨トノ關係文言ガ餘リニ多量デアル爲メニ、原告ノ主張ヲ強ムルコトモアル。市條例ノ規定カラモ、一應ハ斯様ナ感ヲ生ズル。即チ五百法ノ債券ハ實ハ、四百萬磅ノ二十萬千七百六十分ノ一ノ債券ナルヲ、債券所持人ニ換算ノ煩鎖ヲ免レシムル便法トシテ、佛貨五百法ノ債券トナシタルモノト解釋セシメタリ、マタ東京市ハ英貨ニ依テ債務負擔ノ意思ヲ明示シ、之ニ因テ公債ノ應募ヲ誘導シタリト解釋セシメタリ、故ニ券面ノ五百法ハ單ナル五百法ニハ非ズシテ、公債成立當時又ハ其償還期ノ英貨(約二十磅)ニ相當スル五百法ナルコトヲ主張セシムル様ナコトニモナル。利札ニ付テモ同様ナ問題ガ起ル。

### VIII. 有價證券ノ問題

事案ノ公債證書及ビ其附隨ノ利札ハ、各獨立ノ有價證券トシテ觀察サレナケレバナラヌ。元本及ビ毎半年ノ利息ノ請求權ハ、公債證書及ビ其利札ト引替ニノミ行ハレ、マタ其證書及ビ利札ハ、其交付ノミニ因テ自由ニ債權ヲ讓渡シ得ル、無記名式ノモノデアル。故ニ債權ノ成立ハ元來、消費貸借ニ基因スルモノデアツテモ、既ニ成立シタル後ノ債權ハ、有價證券上ニ固定シタル一ノ無因債權トシテ觀察セラル可キモノデ、從テ單ナル債券ノ所持人トシテ債權ヲ行使スルニハ、消費貸借上ノ權利ヲ主張スルコトハ出來ナイモノカモ知レヌ。ソノ點ハ有價證券論、約

因論ナドニ觸レ、コレハ何レノ國ニ於テモ餘程議論セラル、問題デアル。之ヲ實際ニ徴スレバ斯様ナ債券ハ、國際金融市場ニ於テハ、幾多ノ人ニ轉輾シテ取引セラル、モノデアツテ、現在ノ所持人ハ必ズシモ當初ノ消費貸借契約ヲ結ンダ貸主トハ限ラナイニモ拘ハラズ、其權利ヲ主張スルコトニナル。殊ニ記載ノ簡單ナル利札丈ヲ譲受ケタ者が、消費貸主ノ權利ヲ主張スルコトハ奇觀ヲ呈スル様ニモ思ハル。然シ現在ノ債券所持人ハ順次前主ノ權利ヲ承繼シタルモノト考ヘレバ、當初ノ消費貸主ノ權利ヲ主張スルコトニモ不思議ハナイ様ニナル。

マタ資本市場ノ實際ニ於テハ債券ヲ取引スルニ當テ、消費貸借上ノ權利ヲ取引スルト云フ觀念ハ甚ダ乏シク、單ニ一定數額ノ通貨請求權タル無因債權トシテ取引スルモノ、如シ。從テ其債權ハ債券ト共ニ、普通商品ノ如クニ價格ノ昂低ヲ覺悟シ、投機的ニ取引セラル、モノ、如シ。公債ノ如ク長期ニ亘ル法律關係ニ於テハ、當事者ハ初メカラ貸付ケタモノ、實價ヲ辨濟スルト云フ様ナ保守的ナ思想ニ基カズシテ、其返還又ハ利拂期ニ於ケル通貨ノ價值ニハ昂低アルコトヲ覺悟シテ、其結果ハ貸主ノ損トナルコトモアロウシ、或ハ借主ノ損トナルコトモアロウガ、一定數額ノ通貨給付ノ固定債權トシテ、投機的ナ契約ヲ結ンダモノトモ考ヘテ見ナケレバナラス。然ルトキハ前ニ述ベタ様ナ消費貸借ノ概念ハ根本的ニ否定サレルコトニナル。當事者ハ特約ヲ以テスレバ、コノ否定ヲ爲シ得ザル筈ハナイ。實際ノ事件

ニハ斯カル否定ガアツタカ否カハ、認定問題デアロウ。茲ニ注意サレルコトハ約款ノ趣旨ニ徴スレバ、凡テ元利ノ支拂ハ佛蘭西ニ於テ爲サル、場合ハ佛蘭西ノ法貨ヲ以テシ (in Francs in France)、白耳義ニ於テ爲サル、場合ハ巴里宛換算當時ノ爲替相場ニ依テ白耳義ノ法貨ヲ以テ爲サレル (in Belgium at the current rate of exchange on Paris) ト云フコトガアル點デアル。即チ佛蘭西ニ於テハ券面額丈ケノ佛貨ヲ支拂ハレ、白耳義ニ於テハ爲替相場ニ依テ算出セラレタル數額ノ白耳義貨ヲ支拂ハレルコトニナツテ居ル。是ハ白耳義ニ於ケル支拂ノ外ハ、支拂數額ヲ固定的ニ簡單ニシテ公債證書ヲシテ、有價證券トシテノ作用ヲ十分ニ發揮セシメ、取引界ニ流通セシムル必要カラ定メラレタル約款デアルカモ知レナイ。然ルトキハ此約款ハ消費貸借ノ法則ニ從ハザルコトノ、特約トモ見ラレルコトニナル。是レ實際ノ事件ニ於テハ東京市ノ強味トナル論點デアロウ。

#### IX. 信義誠實ト事情變更

或ハ法律論トシテハ成熟ノ域ニ達セザルモ、情理トシテ吾々ノ注意ヲ呼ブモノガアル。即チ東京市ハ下落セザル貨幣ヲ借受ケテ、其電氣事業ノ資本トナシ、而シテ其收益ヲモ收メツ、アルニモ拘ハラズ、其返還ニ付テハ實價ガ下落シテ名義ノミヲ維持スル法貨ヲ以テシ、其ガ爲メ法爲替相場ニ於テ未必ノ利潤ヲ博スルガ如キハ、債務ノ履行ニ付テ信用ヲ破リ、公正ヲ害シ、取引上ノ高等原則ヲ侵スモノデアルト云フガ如キ苦情ガ佛人側



カラ起ツテ居ル。マタ彼等ノ爲ニスル議論トシテハ、公債證書ノ約款ガ英佛兩文ヲ對照シテアルモ、其約款ノ意義ニ關シテ何等カノ問題ヲ生ズルトキハ、其問題ハ英文ニ依リテノミ解決セラル可キコトヲ定メテ居ルハ（約款<sup>15</sup>）、亦タ以テ當事者ガ英貨ヲ信用ノ基礎トシテ、公債ヲ成立セシメタルコトヲ立證スルモノナリトモ解スルデアロウ。是モ公債成立當時ノ事情ヲ解説スル一論據トハナロウガ、然シ是ハ餘リニ目的主義ニ走ツタ推論デアアル。約文ヲ英文本位ニシタコトニ因テ、直チニ債權額ヲ英貨本位ニシタモノト解スルコトハ、推論尙早ノ憾ガアル。尤モ以上ノ情理ヲ法則化シテ説明スルコトニ付テハ、一種ノ考案ハアロウ。――

或ハ債務ノ履行ハ信義誠實（佛民<sup>1135</sup>）ノ原則ニ從テ爲サレナケレバナラヌトナシ、或ハ事情變更又ハ豫見不能ノ原則ニモ基カナケレバナラヌト云フ見地カラモ、原告側ノ主張ハ裏書サレルコトニナロウガ、是等ノ原則ハ何レモ抽象的ナ大原則タルニ止マリ、現實ノ事件ニ對シテハ何等ノ具體的標準ヲ示スモノデナイ。是等ノ原則ヲ具體化シテ、事件ノ解決ヲ計ル爲メニハ、既說ノ如キ特別ノ法理ニ據ラナケレバナラヌモノデアロウ。唯ダ現時ノ係争問題ヲ離レテ、茲ニ一般論トシテ考ヘテ置キタイコトハ、消費貸借ノ如キ長期ニ互テ繼續スル法律關係ニ於テハ、契約締結當時ニハ全ク豫見スルコトノ出来ナカツタ事情ノ變更ニ應化セシメテ、當事者ノ利害ヲ公平ニ整調シテ行ク法理ノ必

要ナルコトデアル。土地ヤ家屋ノ貸借ニ付テハ、大戰後ニ見タ様ナ貨幣價值ノ大變動が無カツタトシテモ、地代ヤ家賃ノ増額又ハ減額ノ請求權ガ、當初ノ契約條件ニ拘ハラズ、法律上是認セラル、ノガ、近世法ノ傾向デアル。是レ長期ニ互ル契約ノ内容ヲ、時世ノ進運ニ適合セシメテ、個人ノ利害ヲ公平ニ取扱ツテ行カウトスル精神ニ出デタモノデアル。然ラバ此理論ハ消費貸借ニモ發展シテ適用セラレテ然ル可キモノデアロウ。契約當初ニ於テ定マツタ一定不變ノ固定的ナ運命ニ拘束セラレテ、給付數額ノ不變ハ投機運ノ結果ナリト見ルガ如キ從來ノ傳統的觀念ハ、最早打開セラル可キモノカモ知レス。然ルトキハ貸主ハ券面額ヨリモ多クノ支拂ヲ受ケ得ルコトモアルト同時ニ、其レヨリモ少キ支拂ヲ受ケテ満足シナケレバナラヌコトモアル様ニナル。斯クテ信義誠實ニモ合致シ、事情ノ變更ニモ應化セル債務ノ履行トナルモノカモ知レス。

## X. 支拂地其他

約款ニ記載セラレタル元利金ノ支拂地ハ、歐洲ニ於ケル債券所持人ノ便宜ノ爲メニ設ケラレタルモノデアツテ、之ヲ拘束ス可キモノデハナイト云フ解釋モ、佛人側カラハ起ラシイ。即チ所持人ハ歐洲ニ於テ支拂ヲ受ケル權利ヲ有スルモ、其義務ヲ負フモノデハナイ、故ニ所持人ハ自ラ出頭シテ債務者ノ住所地タル東京ニ於テ、即チ佛貨ノ強制通用區域外ニ於テ支拂ヲ受クル權利アリトノ主張ニ基キ、從テ金ノ實價ヲ代表スル拉丁聯合

貨幣ノ法若クハ其國貨幣ノ相當額ヲ要求スル權利ヲ有ストスルデアロウ。此論ハ金錢債務ノ法則中、貨幣ノ強制通用力ヲ回避シテ消費貸借ノ理論ヲ徹底セシメテ貸付ケタ實價ノ回收ヲ目的トシテ、組立テラレタ奇論デアル。消費貸借論ノコトハ別トシテ(前述參照)、約款ニ掲ゲラレタル支拂場所ハ、債權者ノ利益ノ爲メニノミ掲ゲラレタルモノト見ルコトハ困難デアロウ。債務者ニ於テモ其他ノ場所ニ於テハ支拂ノ要求ヲ受ケザルコトノ利益ヲ留保シタルモノト見ラレ得ル。故ニ支拂場所ニ付テノ約款ノ記載ハ債權者モ債務者モ共ニ拘束セラル、モノト解ス可キデアロウ。

現實ノ訴訟事件ニ於テ原告勝訴ノ判決ガ確定スレバ、佛國ニ於テハ(東京市ガ佛國ニ於テ有スル保管金等ニ付テ)、直チニ強制執行ヲ爲シ得ルモ、若シ東京市ガ佛國ニ於テ何等ノ財産ヲ有セザルトキハ、日本ニ於テ強制執行ヲ爲スコトモアロウ。其場合ハ吾民事訴訟法ニ從テ、吾裁判所ノ執行判決ヲ求メタ上デナケレバナラス。マタ現實ノ事件ハ僅カニ利札十枚ニ付テノ訴訟デアツテ、其他ノ公債所持人ハ此判決ニ因テ何等ノ權利ヲモ得ルコトハナイ。各自夫々訴訟ヲ爲サナケレバナラスコトニナル。故ニ東京市ガ最後迄爭フト云フ態度ヲ採ルコトニナレバ、債券所持人が其權利ヲ主張シ、之ヲ達成セシムル爲メニハ、可ナリノ煩雜ナル手數ヲ強ヒラレ、其費用デ倒レル者モ出來ルカモ知レナイ。尤モ多數ノ債券所持人ハ一團トナツテ、訴訟能力ヲ有

スル法人トシテ起訴スルコトモ可能デアル。然シ東京市ノ外國ニ於ケル信用ト名譽ニ於テ、即チ國際信義ノ上カラ見テ、徒ラニ爭フガ如キ態度ヲ採ルコトハ不得策デアロウ。寧ローノ訴訟ニ於テ敗訴スルトキハ、東京市ハ佛國確定裁判ヲ尊重シテ總債券所持人ニ對シテ潔ク其履行ヲ爲スコキデアル。マタ佛國側ニ於テハ其實體法上ノ權利ガ愈明白トナレバ、東京市ニ對シテハ司法上ノ強制執行ノ手續ヲ採ルヨリモ、外交上ノ手段ヲ以テ其履行ヲ要求シテ來ルコトニモナロウ。故ニ僅カニ利札十枚ノ訴訟事件ハ、結果的ニハ佛貨公債ノ全體ヲ代表スル爭議トモ見ラレルノデアル。

此稿ノ成レル翌日（1926X6）。新聞紙ノ報ズル所ニ依レバ、問題ノ訴訟事件ハ急ニ取下グラレタト云フコトデアル。私ハ今其眞偽ヲモ、其内容ノナ消息ヲモ詳カニシナイ。然シ一事件ノ成行ガ如何デアロウトモ、一トタビ投ゼラレタ學術上ノ疑問ハ、依然トシテ解ケテハ居ナイ。私ハ單ニ學術上ノ興味本位カラ敢テ卑稿ヲ學界ノ叱正ニ送ルノミ。

コノ卑稿印刷校正中ニ杉山直治郎博士東京市佛貨公債訴訟意見書（非賣品）ヲ讀ムコトヲ得タ。元來卑稿ハ當該事件ノ爲メニスル意見書デモナケレバ、鑑定書デモナク、事件ニ因テ暗示セラレタ學術上ノ問題、殊ニ事件ニ於テハ中心問題タル可キ私法問題ヲ描寫シタモノニ過ギナイ。從テ卑稿ハ杉山博士ノ意見書ノ如ク、訴訟ニ關スル一切ノ問題、殊ニ佛國法ニ關スル一般の説明ヤ訴訟上ノ對策ナドニハ觸レナイシ、マタ其必要ヲモ感シナカツタ。然シ博士ガ注意ヲ拂ハレタ様ナ諸點ニハ、勿論私モ悉ク注意ヲ拂ツテ、コノ卑稿ヲ認メタ筈デアル。唯ダ博士トハ所見ヲ異ニスル點ガ甚ダ多イ。尙ホ博士ノ意見書ニ付テハ、感想モアリ、賛否ノ意見モアリ、或ハ批評ニ亘リタキ點モアレド、同書ハ世ニ公刊セラレタモノデモナク、且ツ元來ガ訴訟事件ノ爲メノモノデモアルカラ、本誌ニ於テ之ヲ論議スルコトハ遠慮シテ居ル。

尙ホ前陳ノ訴訟事件ハ一旦取下ゲラレタルモ、其後更ニ別途ノ方法ヲ以テ同種ノ請求訴訟ガ提起サレタト云フ。未ダ其詳細ヲ知ルニ由ナキモ、今度ハ民事裁判所ニ起訴シ、且ツ一審丈ケニテ終決トナラザル様、即チ上訴ノ餘地アル様、千五百法ヲ超ユル數額ノ請求訴訟デアルラシイ（大正十五年十一月）。

## 附

## 錄

東京市電氣事業公債條例（其ノ一） 明治四十五年二月二十日市條例第二號

第一條 本公債ハ電氣事業經營ノ費途ニ充ツル爲英貨券面九百拾七萬 千磅ヲ明治四十四年度ニ募集ス

前項債額ハ其一部ヲ佛貨公債ニ變更スルコトヲ得此場合ニ於テハ英貨一磅ニ對シ佛貨二十五法二十二參ノ割合ヲ以テ換算ス

第二條 本公債ハ銀行又ハ信託業者ヲシテ引受發行セシムルコトヲ得

第三條 本公債ノ利子ハ券面金額ニ對シ一年百分ノ五トス

第四條 本公債ニ對シ發行スル證券ハ無記名利札附トス

第五條 本公債ニ對スル利子支拂ハ毎年二回トシ前六分宛チ支拂フ

第六條 本公債ノ利子及元金償還ハ電氣事業特別會計ノ負擔トシ元金ハ明治四十九年以後百分ノ一濟崩法（發行額ノ百分ノ一ヲ償還標準年額トシ償還ニ依リ剩生シタル利子額ヲ第二年以下ノ標準年額ニ加ヘテ償還スル方）ニ依リ明治八十五年迄ニ抽籤ヲ以テ償還ス但本公債時價額面以下ナルトキハ買入償還ノ方法ニ依ルコトヲ得

本公債發行ノ日ヨリ十年ノ後ハ何時ニテモ抽籤ノ方法ニ依リ一部又ハ全部チ償還スルコトヲ得但此場合ニ於テハ六月前ニ豫告スルモノトス

第七條 本公債ノ元利金ノ支拂ハ電氣事業ノ純收入ヲ以テ優先ニ擔保セラルルモノトス

第八條 本公債ノ證券ノ種類、元利金支拂方法其他ノ手續ハ市參事會ノ議決ヲ經テ市長之ヲ定ム

東京市電氣事業公債條例（其ノ二） 明治四十五年五月二十二日市條例第三號

一條 電氣事業公債條例ニ依リ發行 スル 公債ハ英貨五百十七萬五千磅及佛貨公債一億八十八萬法トス

第二條 英貨公債中三百十七萬五千磅ハ英國ニ 於 テ 二百萬磅ハ北米合衆國ニ於テ發行シ佛貨公債ハ佛國ニ於テ發行ス

第三條 英貨公債證書ハ額面二十磅、百磅、二百磅ノ三種トシ佛貨公債證書ハ額面五百法トス

第四條 公債ノ利子支拂期日ハ三月一日及九月一日 ト シ 第一回ノ利子ハ明治四十五年九月一日之ヲ支拂フモノトス

第五條 北米合衆國及佛國ニ 於テ 發行ス ル本公債第一回ノ利札ハ明治四十五年三月一日ヨリ起算シタル六月分トシ英國ニ於テ 發行ス ル本公債第一回ノ利札ハ發行ノ日ヨリ起算シ拂込期日及金額ニ應シタル部分利札トス 但佛國ニ於テ發行ノ本公債ハ發行ノ日ヨリ明治四十五年二月二十九日迄ノ日割利子ヲ支拂フモノトス

第六條 本公債償還抽籤ハ六月一日償還ハ九月一日 ト シ 第一回抽籤ハ明治四十四年六月一日トス

第七條 本公債元利金ノ支拂ハ 電氣事業公債條例第七條ニ 規定スル優先擔保ノ外市ノ總收入ヲ以テ一般ニ擔保セラルルモノ ト シ一般擔保ハ明治三十九年ノ事業公債元利金ヲ特ニ擔保スル收入ヲ除キタル部分ニ付同公債ト同一順位トス

#### 附 則

第八條 本條例第一條及第七條中公債條例トアルハ明治四十五年二月十三日地第一一七一號ヲ以テ許可ヲ受ケタル 本年東京市條例第二號電氣事業公債條例ヲ指ス

#### 公債發行 明治四十五年市會議決第十九號

本年第十八號議案ニ依ル東京市電氣事業公債左ノ通り募集スルモノトス

發行地	募 集 額	手 取
英 國	英貨參百十七萬五千磅	百分ノ九十三以上
米 國	米貨貳百萬磅	百分ノ九十三半以上
佛 國	英貨四百萬磅	百分ノ九十二以上

## 公 債 證 書 譯 文

法學部助手 金澤理康譯

## 本 證

## 東 京 市

5 分利附	1912年公債
總 額	9,175,000 <sup>ポンド</sup> 磅
内英貨公債證書分	5,175,000 磅
佛貨公債證書分	100,880,000 <sup>フラン</sup> 法
(英貨 4,000,000磅ニ相當)	

1911年10月4日及ビ1912年2月13日ニ議決セラレ且1912年2月13日ニ日本帝國政府ニヨリ認可セラレタル東京市會ノ議決ニ因リテ創定且發行。(該議決ニ付キテハ1912年2月20日ニ公布セラレタル東京市條例第2號參照)

佛蘭西市場ニ對シテ留保セラレタル發行額

公稱 100,880,000法

5分利附500法ノ公債證書ノミ201,760枚

ニ分割

證書番號151589

發行價格500法

上記ノ議決ト認可トニ因リ、且之ニ基キテ、東京市ハ總額91175,000 磅ノ公債ヲ表象スル公債證書ヲ發行シ、且該公債中4,000,000 磅即、100,880,000 法ハ之ヲ以下述ブル所ノ條款ニ從ヒ、佛貨公債證書ヲ以テ發行スル權能ヲ賦與セラレタリ。サテ余、市長尾崎行雄ハ東京市ニヨリテ適法ニ授權セラレタル者ナルガ故ニ、本證ニ依リ、東京市ナシテ、次ニ述ベラレタル合意、條款及ビ條件ノ適法ニシテ正確ナル遵奉ト履行トヲ爲サシムルモノナリ。

1. 本公債證書ノ所持人ハ下ニ述ブル所ニ從ヒ、東京市ヨリ毎年3月1日ト9月1日トノ半期毎ニ支拂ハルベキ年25法ノ利子ト共ニ500法ノ金額ヲ受領スルノ權利ヲ有ス。元金及利子ニ課セラレ、又ハ課セラルベキ佛蘭西所得稅(印紙稅ヲ含ム)ノ額ハ夫々該元金及ビ利子ヨリ控除セラルベシ。

2. 元金及ビ利子ノ支拂ハ、凡テ、佛蘭西ニアリテハ、法ヲ以テ、巴里プロバンス街 54—6 番地佛蘭西商工獎勵一般協會事務所、並ニ巴里及各府縣ニ於ケル右協會ノ支店及代理店ニ於テ、又巴里ダンタン街 3 番地 巴里和蘭銀行ニ於テ、更ニ又巴里ベルジエール街 14 番地國立割引銀行及其各支店ニ於テ爲サルベク、尙、白耳義ニアリテハ巴里宛換算當時ノ爲替相場ニ依リ、同様ニ佛蘭西所得稅(印紙稅ヲ含ム)ヲ控除シタル上、ブラッセル及アントワープ所在佛蘭西銀行協會事務所ブラッセル所在巴里和蘭銀行及巴里國立割引銀行出張所ニ於テ爲サルベシ。利札ハ支拂期日ヨリ 5 年ヲ經過スル時ハ、其ノ支拂ヲ拒絕セラルベク、當籤證書又ハ償還期限到來ノ證書ハ支拂期日後 10 年ヲ經過スル時ハ其ノ支拂ヲ拒絕セラルベシ。

3. 斯クシテ、仕拂ハルベキ元金ハ、1952 年 9 月 1 日ニ至ル迄ノ間ニ平價ヲ以テ償還セラルベシ。但下ニ述ベラレタル償還ニ關スル條款ニ從ヒ其以前ニ於テ支拂ハレタル場合ハ此ノ限ニ非ズ。然レドモ東京市ハ市場ニ於ケル買入ニ依リ何時タリトモ本公債ヲ償却スル權利ヲ留保スルモノトス。

4. 利子ハ本證書附屬ノ固有利札引換ニ支拂ハルベク、元金ハ支拂期未到來ノ凡テノ利札附ノマヽノ本公債證書ト引換ニ支拂ハルベシ。一若シクハ其レ以上ノ支拂期未到來ノ利札ガ欠缺シ居ル場合ニ於テハ、其ノ額ハ公債證書所持人ニ支拂ハルベキ公債證書ノ元金ヨリ控除セラルベシ。

5. 本公債證書ハ次ノ同日附同條件發行公債證書ノ一ナリ。

1 番ヨリ 201,760 番ニ至ル各券面 500 法

6. 東京市ハ 1916 年以降毎年 1 パーセントニ該當スル償還準備積立金ノ積立ヲ爲スコト、且該準備金ハ本證書裏面記載ノ表ニ從ヒ、若シ該公債證書ノ價格ガ平價又ハ平價以上ナル時ハ抽籤ニ依リ平價ニテ、若シ其價格ガ平價以下ナル時ハ買入ニ依リテ、毎年公債證書ノ償還ニ充ツベキコトヲ約ス。前述ノ如キ抽籤ニ依リテ該償還準備金ガ償還ニ充テラルヽトキハ該抽籤ハ必ズ其年ノ 6 月 1 日ニ執行セラルベク、當籤證書ノ償還ハ同年 9 月 1 日ニ爲サルベシ。

7. 前述ノ如キ償還準備金ヲ以テスル外、東京市ハ 1922 年 2 月 23 日以後ニアリテハ、隨時、廣告ニ依リ 6 ヶ月前ニ豫告ヲ爲シ、支拂期到來ノ利子ト共ニ本公債證書ヲ平價ニテ償還スルコトアルベシ。若シ全公債證書ノ一部ガ本項ニ從ヒ隨時償還セラルル場合ニハ、該公債證書ノ番號ハ抽籤ニ依リテ決定セラルベク、該抽籤ハ公



債證書償還ノ確定期日ノ少クトモ 3ヶ月以前迄ニ巴里ニ於テ執行セラルベキモノトス。

8. 第6項及ビ第7項ニ述ベラレタル抽籤ハ、東京市ニヨリテ特ニ依嘱セラレタル委員立會ノ上、佛蘭西商工獎勵一般協會事務所ニ於テ執行セラルベシ。

9. 當籤證書ノ番號ハ、巴里ニ於ケル二種ノ新聞紙上並ニ他ノ二種ノ日本語新聞ニ、抽籤終了後直チニ廣告セラルベク、償還期日以後ハ該當籤證書ニハ利子ヲ附セザルモノトス。

10. 總額 9,175,000 磅ノ公債ニ該當スル本公債證書ノ元金及ビ利子ノ適法ナル支拂ノ擔保トシテ、茲ニ東京市ハ特ニ本市ノ企業タル電車及ビ電燈ノ毎年ノ純益ヲ提供シ、而シテ、該擔保ハ第一擔保タルベキコト、並ニ本證書第6項及ビ第7項ノ規定ニ依ル利子ノ支拂又ハ元金ノ償還ノ何レカニ付キ不履行アリタル時ハ、直チニ差押ヘラレ且實行セラルベキモノナルコトヲ茲ニ明言スルモノナリ。加之東京市ハ又東京市ノ他ノ全收入ヲ一般擔保トシテ提供スルモ、而モ此ノ擔保ハ 1906年東京市ノ發行ニ係ル 1,500,000 磅ノ英貨公債ニ就キ設定セラレタル擔保ト同順位ニ在ルモノトス。但シ其公債ノ爲ニ該收入ノ確定部分ニ依リ擔保トセラルル年額 99,480 磅2 志 2 片ノ特別擔保ハ此限ニ非ズ。

11. 東京市ハ本公債ノ證書裏面ノ表ニ從ヒテ爲ス元金ノ順次償還利拂用ニ充ツル爲、之ニ要スル年額ノ四分ノ一ヲ 3ヶ月毎ニ橫濱正金銀行ニ預入ルベキコトヲ約ス。

12. 本公債證書ハ所持人ノ死亡ト同時ニ、死亡者ノ住所地ノ法律ニ從テ、其相續人ニ移轉若シクハ歸屬スベシ。

13. 若シ自今、日本ノ政府又ハ地方官憲ノ何レカニ依リテ今回發行ノ公債證書ニ課税セラル、コトアラバ、凡テ東京市ノ負擔タルベシ。

14. 本公債證書ハ本證下部ニ日本興業銀行ニヨリ又ハ同銀行ニ代リテ連署セラル、マデハ法律上義務ヲ發生セザルベク、且有效ニ非ザルベシ。

15. 若シ東京市ト本證書ノ所持人若クハ本證書ニ利害關係アル者トノ間ニ本約款ノ意味ニ關シ何等カノ問題生ジタル時ハ、該問題ハ唯英語ノ原文ノ引照ニ依リテノミ解決セラルベキモノトス。

1912年2月22日付

日本興業銀行ニ代リ

佛蘭西商工獎勵一般協會

東京市長

連署シテ之ヲ證ス

尾崎行雄

(署 名)

利	札
---	---

1912 年東京市五分利附公債

總額 9,175,000 磅

内佛蘭西ニ於テ發行セル分 4,000,000 磅

(100,880,000法)

$12\frac{50}{100}$  法 500 法證書ノ所持人ニ對スル債務

證書番號 151589 利札番號 28

12法5 サンチームノ本利札ハ

1926 年 9 月 1 日巴里ニ於テ

佛蘭西國稅所得稅（印紙稅ヲ含ム）ヲ控除ノ上支拂ハルベク、尙アントワープ及  
ビブラツセルニ於テモ亦佛蘭西國稅所得稅（印紙稅ヲ含ム）ヲ控除ノ上、巴里宛換  
 算當時ノ爲替相場ニ依リ支拂ハルベシ。

### 法 律 討 論 會 記 事 法學部助手 野 村 平 爾

大正十五年七月三日(土)午後一時カラ二十番教室ニ於テ開カレタ。

問題ハ遊佐教授ノ出題テ次ニ示ス如クデアル。

「佛蘭西ニ於テ東京市ノ發行セル公債證書所持人が、佛貨ヲ以テスル支拂ノ受  
 領ヲ拒ミ、英貨ヲ以テ支拂フ可キコトヲ求メタリ。法律上ノ權利アリヤ。」

備考

1. 右證書ニハ債權額ヲ表示スルニ就キ、「佛貨 000 フラン(英貨 00 ポンド)」

ト云フ意味ノ記載アリト云フ。

2. 右債權ノ成立ハ今日ヨリ十數年前ノコトニ係リ、當時ニ比スレバ佛貨ノ價值ハ著シク低落シタリト云フ。

學生側ノ討論者ハ法律上ノ權利アリトシテ積極説ヲ採ル者四名、法律上ノ權利無シトノ消極説ヲ主張スル者七名併セテ十一名デアツタ。

積極説ノ論據ハ大體次の二點ニ歸着シタ。第一ニ取引ニ於ケル信義誠實ノ原則ハ債權法ヲ支配スル大原則ナルガ故ニ問題ニ示スガ如ク貨幣價值ニ著シキ變動アル場合ニハ宜シク法律ノ精神ニ照シ信義誠實ノ原則ニ從ツテ解釋ス可キモノデアルトスルコトト第二ニ債權證書面ニ記載セル金額ハ金錢ガ有スル内的價值ヲ表現シタモノト見ル可キデアル。何人モ即チ債權者、債務者共ニ募集當時以上ノ如キ著シイ價額ノ變動ヲ豫期シテ投機的ニ契約シタモノトハ解シ得ラヌト主張シタ。

之ニ反シテ消極説ヲ支持スルモノハ第一公債證書面ニ記載セル佛貨 000 フラン (英貨 00 ポンド) ハ單ナル參考トシテノ換算額ニテ格別ノ意味ナシトスルカ又ハ假リニ之ヲ一ノ選擇債權ト見ルモ特約ナキ限りハ吾民法四〇六條ニヨリ選擇權ハ債務者即チ東京市ニアル可キモノデアルトシ、第二ニ公債モノノ有價證券ナルガ故ニ券面ニ記載ナキ事項ヲ以テ對抗スルコトヲ得可キニ非ズトシ、第三著シキ價額ノ變動ニ關シテモ豫メ當事者ニ於テ豫想シ得ザル事デハナク豫想セザルヲ理由トシテ法律上ノ請求權アリトスルニ於テハ金錢債權ノ本質ヲ害ス可ク取引上ノ安全ハ保障シ得ザル結果トナル可シトシ、最後ニ積極論者ノ主張スル信義誠實ノ原則ハ名文ニヨリ解釋シ得ザル時ニ援用ス可キモノデソノ濫用ハ法律ノ安定性ヲ害フモノト反駁シタ。

尙兩説ノ論者中問題ノ性質上勢ニ涉外法律關係ニマデ論及シタモノモアツタガ徹底シタ解釋ヲ下シタモノハナカツタヤウデアル。又參考ニマデ加ヘラレタ原本ノ約款ノ文言ノ解釋ニ就イテハ豫想以上ニ爭ハレタガ問題ノ範圍外デアルカラ省略スルコト、スル。學生側ノ討論ニ次イデ當日臨席セラレタ校友、教授ノ有益ナ意見ヲ拜聽スルコトヲ得タ。

先ヅ校友長島氏ハ獨逸ニ於ケル學説ノ傾向トマルク相場ノ著シイ下落ニ鑑ミテ制定セラレタ増價法ノ説明カラ吾國、佛蘭西ニハ未ダ明文ハナイガ社會現象ノ著シイ激動ニ際シテハ事情變更ノ抗辯モ或ハ提出シ得ルモノデハナイカト論ゼラレ、校友奥岡氏ハ解釋ノ基本トナル可キモノハ誠實信義ノ原則デソレニ基キ公平便宜

ニ從フ解釋ヲ採ル可シトセラレ、尙該公債ハ佛貨ノ外ニ英貨ヲ希望スルモノニハ英貨ヲ以テ支拂フ可シト云フ意味ヲ記載シタ所ノ選擇權ガ債權者ニ存スル選擇債權ト解シ得ラレルト主張セラレタ。

次イテ井上先生ハ積極論者ノ主張スル信義誠實ノ原則ハ無制限ナモノデハナク取引ノ慣習ヲ顧慮シタル信義誠實ノ原則アナケレバナラヌト戒メラレ、更ニ現在ニ於テ契約當時ニ比シ高イ購買力ヲ有スル英貨ニヨリ履行ヲ請求スル積極説ハソノ儘是認シ難イトシ寧ロ消極説ヲ主張セラレ。

中村宗雄先生ハ同様ニ直ニスル磅貨ノ請求ヲ理由ナシトセラレ更ニ一步ヲ進メテ「金額債權ハ貨幣ニヨリ具現セラレタル價值ノ債權ナリ」トノ新シイ金額債權ノ定義ヲ提唱セラレテ廣義ノ積極説ヲ採ラレ、又

高井先生ハ現行日本法ヨリハ直チニ積極説ハトレヌトシ先ヅ金錢債權ノ本質論ニ立チ返ツテ債券面ノ記載金額ヲ以テ價值ノ表現ナリトセネバ積極説ノ根據ハ成立セヌト批評セラレタ。

最後ニ出題者遊佐先生ノ詳細ナ講評ガアツタガ先生御自身記稿セラレルトノコト故省略スル。

當日學生側討論者中次ノ七氏が授賞セラレタ。

- |     |                     |      |
|-----|---------------------|------|
| 一 等 | 實 田 實 男 君 (專法三)     | 消極説。 |
| 二 等 | A、渡 邊 惠 三 君 (專法二)   | 積極説。 |
|     | 同 B、石 井 覺 一 君 (專法二) | 消極説。 |
| 三 等 | A、柏 原 武 夫 君 (專法二)   | 消極説。 |
|     | 同 B、山 口 恒 夫 君 (大法二) | 消極説。 |
| 四 等 | A、齋 藤 金 作 君 (大法二)   | 積極説。 |
|     | 同 B、生 田 國 生 君 (專法二) | 積極説。 |